

九州の3個人、1団体がJICA理事長賞を受賞 ～国際協力促進への貢献～

国際協力機構（JICA）では、毎年、国際協力事業を通じて開発途上国の人材育成や社会発展に多大な貢献をされた個人・団体に対し、その功績を称え、表彰しています。

第16回を迎える今年度は、以下の3個人および1団体がJICA理事長賞を受賞することが決定いたしました。団体へのオンライン取材等も調整可能です。ぜひご取材を検討下さい。

受賞個人/団体名	受賞理由
国立病院機構熊本医療センター 診療部長・消化器内科部長 杉 和洋 (すぎ かずひろ)様	杉様は、25年以上にわたり、肝炎を中心とした感染症対策分野でのJICA事業に貢献されました。 ・特に、エジプトでは帰国研修員を中心とした活動により肝炎対策の基盤が形成され、WHOが推進する2030年までのエジプトでのC型肝炎排除に向けて寄与されました。
元青年海外協力隊員 綿谷 章(わたや あきら)様 (長崎県在住)	綿谷様は、1980年に、青年海外協力隊 陸上競技隊員としてペルーに赴任されて以来、長年に亘ってペルーの陸上競技の振興、発展に寄与されました。また、25年にわたり長崎県協力隊OB会及び長崎県協力隊を支援する会の役員として、協力隊の応募勧奨や進路相談などに貢献され、長崎県時津町教育委員長の在任期間中は、様々な地域活動を通じ、長崎県民へのJICA事業を含む国際協力の関心向上に大きく寄与されました。
元日系社会シニアボランティア 浦田 昌寛(うらた まさひろ)様 (熊本県在住)	浦田様は10年以上にわたりブラジルやアルゼンチンで日系社会シニア・ボランティアとして多くの温帯果樹の栽培技術を指導され、特にブラジルでは富有柿の生産量が指導前に比べ倍増して欧州や北米カナダ向けに輸出できるまで成長するなど栽培技術向上に大きく寄与されました。また、果樹生産者組合の運営方法や商品の品質管理方法、マーケティングに関するアドバイス等で組合の持続的な運営とその人材育成に寄与されました。
九州大学大学院工学研究院 地球資源システム工学部門	「九州大学大学院工学研究院地球資源システム工学部門」様は、足掛け50年の長期にわたり国際地熱研修コースにおいて地熱分野の人材育成に貢献され、これまでに37か国、延べ448名の人材を育成されました。JICAの長期研修である「資源の絆」でも、多数の研修員を修士や博士課程の留学生として受け入れてくださるとともに、同長期研修員との人的つなが

りもいかし、JICA との関係が深い、ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学で初の SATREPS 事業を形成されました。

*オンライン形式での表彰式を、10月15日(木)に開催します

・ご取材の参考として視聴をご希望の方には、後日録画映像の共有が可能です(ただし映像/写真を報道にご活用いただくことは難しい旨、予めご了承ください。

*JICA 理事長賞の全対象者については、以下の JICA ウェブサイト上に10月8日(木)に公開されます (<https://www.jica.go.jp/>)

【参考情報】

杉 和洋 (すぎ かずひろ)様 関連写真



包括的なウイルス肝炎対策コースでの研修の様子

※取材ご希望の方は、お手数ですが以下までご連絡頂けますと幸いです。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 九州 市民参加協力課 上島(かみしま)

TEL 093-671-8250

e-mail:Kamishima.Atsushi@jica.go.jp